

読んでスッキリ! いまさら聞けない?  
話題のニュースを学べるマガジン

ご参考資料 ピクテ投信投資顧問

# Bonjour

ボンジュール!!

2015年  
1月13日号

Vol.200



## 1月の見通し 年頭にポートフォリオの再点検を

### ● 波乱の幕明けですが…

2015年の相場は、ギリシャ問題、原油安などの不安材料から波乱の幕明けとなりました。しかし、米国では原油価格の下落が消費者支出を押し上げていることや2014年7-9月の国内総生産(GDP)も前期比プラス5.0%(年率)と11年ぶりの高成長を記録するなど、引き続き世界経済を力強く牽引しています。日本は、消費増税のダメージから2四半期連続でマイナス成長となりましたが、企業部門を中心に景況感が上向きつつあります。年末の解散総選挙で勝利し、安倍政権が本腰を入れて経済対策に取り組む環境が整ったことも、景気の先行きに期待を持たせる材料といえます。

ユーロ圏は、域内のデフレ圧力が依然として強く、欧州中央銀行(ECB)は今年1-3月中にも国債買取りを含む本格的な量的緩和に踏み切ると見えています。

### ● ソブリン・リスク再浮上

2010年のギリシャ・ショックで有名になった「ソブリン・リスク」という言葉に再度注目が集まっています。

ギリシャでは2012年に政権についたサマラス首相の下、公務員削減など緊縮策が推し進められ、国家財政は改善に向かっています。しかし、失業率は25%に達するなど国民生活は疲弊しており、緊縮策の見直しを訴える急進左派連合への支持率が高まっています。

最悪ユーロからの離脱も懸念されており、1月25日の総選挙は要注目です。

また、新興国や資源国の一部でも信用リスクが拡大し始めています。

特に、原油価格の大幅な下落によって苦境に陥っている産油国、ロシアやベネズエラの信用リスクが高まっています。高い成長力がある新興国や豊富な天然資源を有する資源国は、長期的に見て有望な投資対象であることに変わりありませんが、短期的な価格変動リスクが大きそうです。

### ● 遠くのは避けよ

今、世界で起きている出来事は、欧州や一部の新興国や資源国にとっては重大な問題といえます。

しかし、全ての市場が同じ影響を受けるわけではなく、例えば原油安は産油国にとっては災難ですが、石油輸入国にとってはプラスであるように、資産クラスや市場毎に明暗がはっきり分かれています。

こうした状況では、投資している資産がどのリスクに晒されているか認識して選別する必要があります。

「遠くのは避けよ」という相場の格言を地で行く投資スタイルがいいでしょう。

ギリシャ問題や原油安の影響が思わぬ波乱をもたらしかねない今、馴染みが薄くて縁遠い資産はなるべく避けた方が無難といえそうです。

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。